

平成 27 年度 発達障害に関する教職員育成プログラム開発事業
成果報告書（概要版）

実施機関名（ 国立大学法人兵庫教育大学 ）

1. テーマ

「大学院と学部が協働する研修プログラム開発」
－ ニーズ調査をふまえた学びのデザイン構築とエッセンシャル版作成 －

2. 問題意識・提案理由

通常学級での発達障害への対応や配慮の重要性が高まっている。行動問題などへの喫緊の対応がある一方で、「特別でない特別支援教育」と言われるように、本来の学校教育や授業・学級経営の力量を高めることは、対象となる子供への支援・配慮へつながる。

大学院のミドルリーダー育成と学部養成（若手教員研修）を一体として考え、全体システム化することが重要である。ミドルリーダーとしての研修を受けた教師が、学部段階の教育の一端を担うことで、自らの学びを伸張することが期待される。

3. 目的

本学大学院特別支援教育コーディネーターコースの取り組みを活かしながら、新たに学部養成段階の教育を見据えたカリキュラムづくりを目指す。これにあたって、コースの現職教員大学院生が、学部授業でファシリテート役を務めるようカリキュラムを組み立てる。

本年度は、学部 4 年次の「教職実践演習」を新たに担当するとともに、大学院では引き続きコミュニケーションに関する授業と、通常学級の特別支援教育に関する授業とのリンクを図り、これらの効果について検討する。また、現職教員を対象とした公開講座等でワークショップ型研修の試行をおこない、エッセンシャル版の完成を目指す。

4. 主な取組内容

学部における取り組み：「学部 4 年次『応用教育実習』ガイド 特別支援教育の視点から」を作成して、全受講生に配布した。また、課外プログラム受講生を対象に 4 年次必修授業科目「教職実践演習」の事例研究を担当して、コース院生もグループワークに参画した。

大学院における取り組み：M1 前期に新設した「特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション」では、新たに合意形成の内容を取り入れ、ワークショッププロセスを明示するとともに、「特別支援教育と通常学級の授業づくり・学級経営」の内容を改善した。後期の「特別支援教育授業方法論」においても、前期での学びを反映したパネルディスカッションの導入など工夫をおこなった。これらの授業と連動する企画として公開講座「コミュニケーション力を育む演劇ワークショップ 2」を開催した。

セミナー等の開催：全国向けの公開講座「第 4 回発達障がい支援アドバンスド講座」を開催し、発達障害支援の動向に関する講演、その最前線についてのミニレクチャーを実施した。また、セミナーとして「インクルーシブ教育を考えるワールド・カフェ」「漢字テスト あなたはどう採点しますか？」「iPad を活用して発達障害のある生徒の学習意欲を高める！」「先

生のための貿易ゲーム！」等を開催した。

学会活動：日本LD学会第24回大会において、自主シンポジウム「発達障害の子どもへの気づきを促す教員研修・養成について～演劇づくりワークショップによる現職教員と学生の学び～」を企画し、演劇づくりワークショップ研修の可能性について議論した。

5. 主な成果

学部における取り組み：教職実践演習におけるアンケートから、応用教育実習や課外プログラムの学校訪問などでの実地経験が、課題解決を志向した今回の事例研究で積極的に活かされたことが明らかとなった。「発達障害等のニーズのある子供について、今後、より積極的に学んでいきたいと思いませんか？」への問いに、参加学生12名全てが「とてもそう思った」と回答していたことは、参加した学部生の関心の高まりや学習意欲の向上を示すものと言える。また、院生は学部生の考え方の柔軟性を高く評価するとともに、共に学んでいく必要性を感じていた。

大学院における取り組み：「特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション」では、怒りの度合いを見える化することで、合意形成にあたっての言葉選びの大切さなどについての気づきが見られた。「特別支援教育授業方法論」の演劇づくりでコンサルテーションを学ぶでは、学校やコンサルテーションの文脈や背景を特定して、子供への気づきを引き出しているグループが見られた。また、大学のアクティブ・ラーニングビデオ制作に協力して、今年度のワークショップ型授業風景が20分ほどの紹介ビデオとして編集され、大学ホームページやYouTubeで公開されることになった。

成果普及：大学院授業や公開講座の成果をもとにしたエッセンシャル版研修テキスト「問題解決！先生の気づきを引き出すコミュニケーション 演じて学ぶコンサルテーション研修」を出版するとともに、DVD 研修教材として「やってみよう！演じて学ぶコンサルテーション研修」を作成して、都道府県教育センター等へ配布した。また、取り組み内容とその評価をまとめた年次報告書を作成して、都道府県教育センター等へ配布するとともに本学特別支援教育モデル研究開発室ホームページからダウンロードできるようにした。

6. 今後の課題と対応

学部：当面の間、学部課外プログラムが継続されるが、コース教員の授業負担軽減を図っていくことが必要である。将来的には、課外プログラムが正規授業化されていくことが望ましいが、学部カリキュラムの過密化の問題もあり、大学全体での抜本的な検討が求められている。

大学院：本委託事業においても、現職教員の院生が学部教育に関わることの効果が確認されてきたが、現職院生が学部教育にフォーマルな形で関与するためには、学内体制整備や派遣元教育委員会の同意が課題となっている。

成果普及：エッセンシャル版として、演劇づくりワークショップ型研修プログラムを開発したが、これが全国的に普及していくためには、実施担当者の育成が課題となる。このため、指導主事等が研修プログラムを実施するにあたって、そのノウハウを伝えるセミナーを開催することが必要であろう。また、現職院生と学部生（ストレート院生）が協働した学びの成果を学校現場で実現していくためには、地域でベテラン教員と初任者など若手教員が共に学

んでいく時間を確保して、場づくりの環境を整備していくことも重要と思われる。

7. 問い合わせ先

組織名：国立大学法人兵庫教育大学

- (1) 担当部署 教育研究支援部研究支援課研究支援チーム
- (2) 所在地 兵庫県加東市下久米 942-1
- (3) 電話番号 0795-44-2418
- (4) FAX 番号 0795-44-2302
- (5) メールアドレス office-kenkyu-t@hyogo-u.ac.jp